

SAMPLE

外部評価につながる情報発信のコツ

～よりよい社外評価とレポーティングを目指して～

第19期（2022）サステナビリティ推進フォーラム

Cグループ「社外評価とレポーティング」

発表者：大石、岸、大瀧、鈴木

はじめに：今期の活動内容

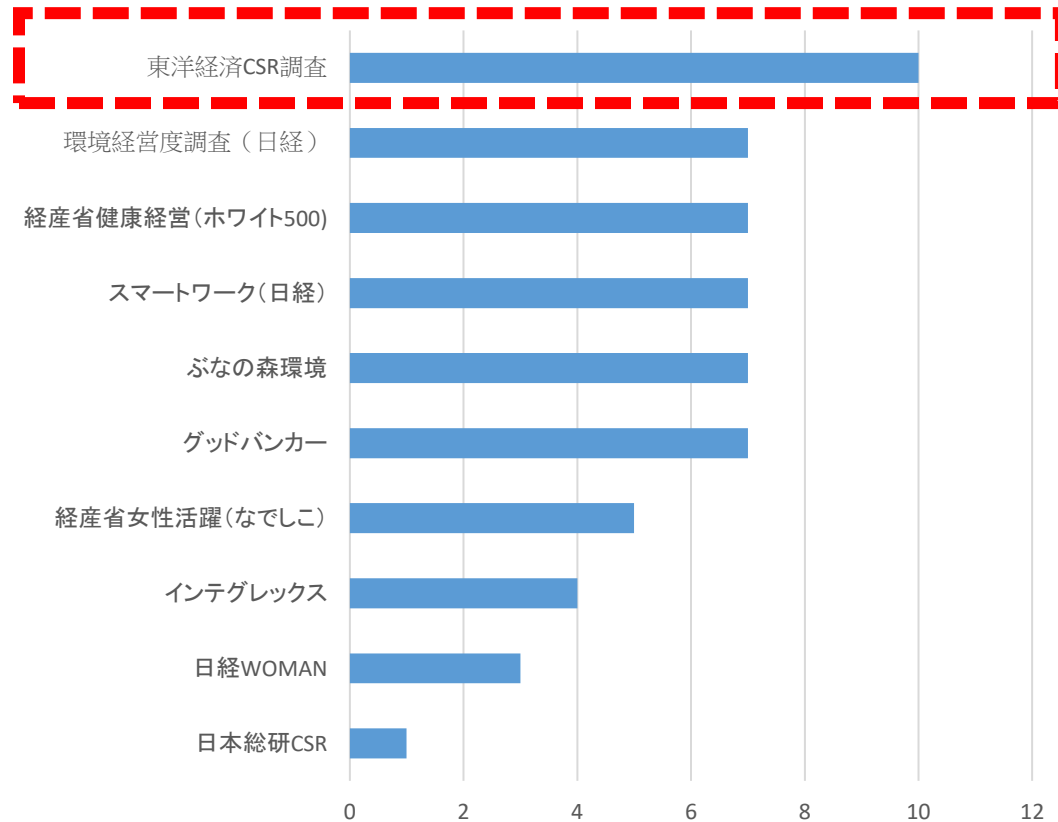
よりよい社外評価とレポーティングを目指し、以下の5テーマを中心に情報共有や意見交換

開催日	分科会テーマ	オフ会（任意）
第1回 5/13	自己紹介・年間テーマの検討	
第2回 6/10	年間計画の決定・分担決める	
第3回 7/15	各社の基本情報の共有	
第4回 8/19	外部評価	●
第5回 9/9	WEB活用	●
第6回 10/14	コンサル活用	
第7回 11/11	レポート制作のノウハウ・棲み分け	
第8回 12/16	リスクと機会の開示方法	●
第9回 1/13	活動まとめ・小分科会	
第10回 2/10	活動まとめ・小分科会	
第11回 3/10	発表リハ・全体発表	●

毎回の2時間の分科会に加え、任意でリモートオフ会も開催。「ここだけの話」を活発に情報交換

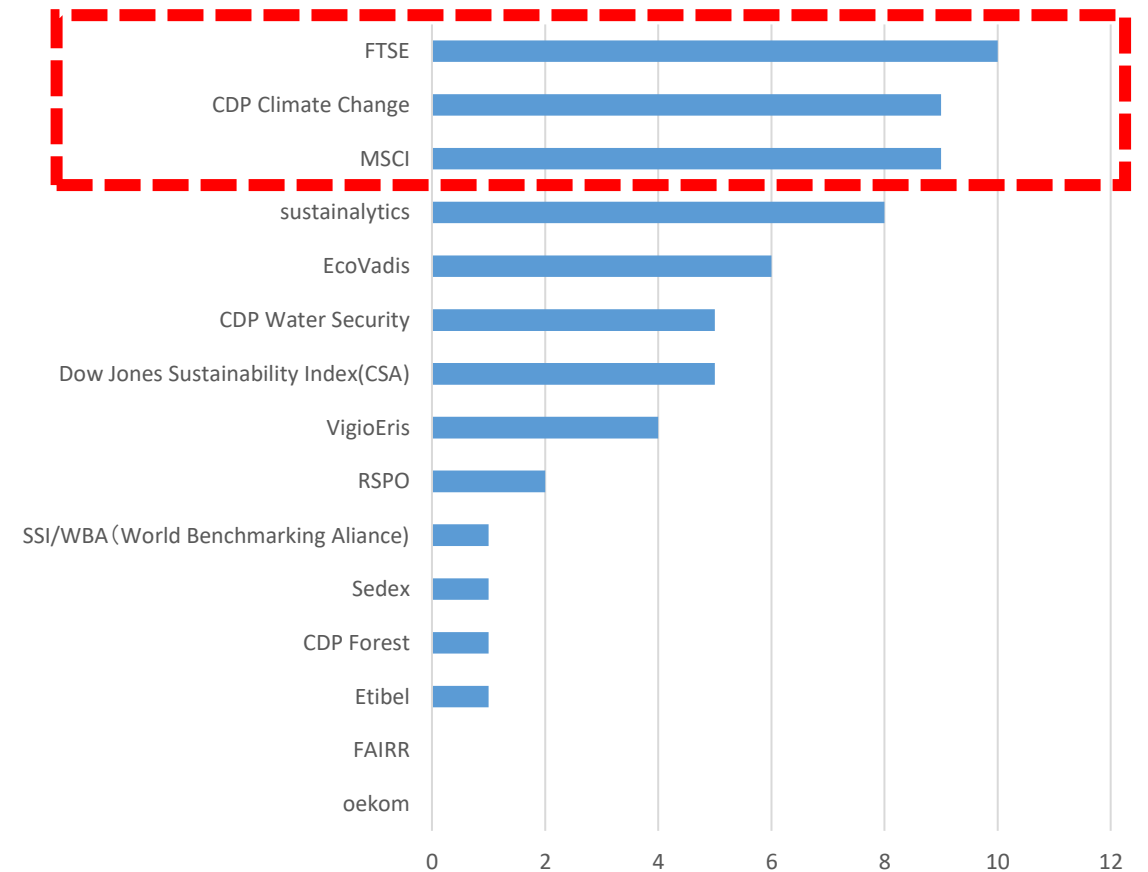
国内指標では、**東洋経済CSR調査**に取り組む企業が多い
 海外指標では、**FTSE、CDP、MSCI**に取り組んでいる企業が多い

● 国内の外部評価指標



N=14

● 海外の外部評価指標



N=14

WEB活用のノウハウ紹介

分科会での意見交換（WEB活用）

WEBは多くの会社がSHを意識し、適時開示やESG評価機関対応に有効な媒体として位置付けている。

主な論点	意見交換の要旨
トレンドを踏まえた掲載項目	<p>TCFD：定性開示した会社は定量開示が課題。未開示の会社についても体制構築や情報収集中</p> <p>人権：方針、DD、会社特有のリスク/課題、救済措置、バリューチェーン上の取り組みが求められる（開示しなければその理由を明示）</p> <p>人的資本：有報での開示が求められ、定量開示、対象範囲が課題</p>
ESG評価機関対応	<ul style="list-style-type: none"> ・評価機関の求める要件に個別ページの構成を整理・開示（Ex.方針→体制→取り組み→パフォーマンス）、社内のPDCAと連動 ・AIや自動検索を意識した対応（Ex.画像ではなくテキストで対応、英文もAIに対応できる単語にする、必要項目にタイトルを追加）
WEBの更新頻度とタイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・統合報告書やサスレポのタイミングと連動、年1回の改訂が基本 ・評価機関の動きをウォッチし、情報の鮮度やタイミングを意識し必要に応じて都度
情報にたどり着きやすくする工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューのシンプル化 （Ex.メガドロップダウンや第一階層のメニュー表示の工夫、INDEXページを設置する） ・ページ階層のシンプル化（Ex.3階層までに止める） ・テキスト内の重要ワードは、リンクにしてジャンプできるようにする
コンサル活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブで重視すべきポイントが得られるため、開示がより効果的

分科会参加者の声

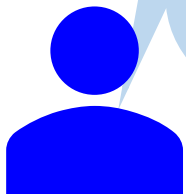


オフ会も貴重な場！

オフ会でのGRI準拠の話は大変参考になりました。

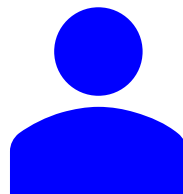
効果的な情報開示のヒントが得られた！

WEBで意識しているターゲットへの情報発信の工夫、検索性向上の取り組みなど参考になった。



分科会は業界の縮図

近年のTNFD等の動向に対してどう対応するかについても、各社の温度感を知ることができて有意義でした。



自社内では得られない情報入手

レポート制作について、各社の制作効率化に対するノウハウが参考になりました。



悩みの客観化

統合報告書と、有報のリスク表現の統合について、他社でも懸念点であり、検討されている様子が伺え、参考になった。

